

私たちの町、今とこれから

1年1組

●今の私たちの町

3月11日。次の日が卒業式だった私達は、式の練習と準備をしていました。何事もなく帰ろうとしてたときにでした。突然立ってられないほどの揺れがきました。みんなで机の下に隠れ、収まるのを待っていました。何分ぐらい隠れていたのか……。揺れが収まり、みんなで外に出ようと下に降りて行くとき、飾ってある花瓶、額、すべて落ちていました。校庭に避難しても揺れていて、とても怖かったです。午後2時46分。地震直後に出されていた津波が来ました。次々飲み込まれていく家。そして、人。学校にいても危ないと感じ、さらに上の山に登りました。山の上から、自分達の町が流されていくのを見ていました。波が引いた後の光景が今も忘れられません。



・撮影日時 平成23年3月13日

・場所 米崎

・コメント 震災後2日後の様子

その夜、おにぎり一個を食べ過ぎました。家を心配する人、家族を心配する人、家族に会えてホッとして涙を流す人さまざまでした。あの夜食べたおにぎりの味は忘れられないし、寄り添って寝る避難していき人々の姿を忘れることはありません。朝起きて町を見てもそこにあるはずの町がありませんでした。普段穏やかな海があんなに怖いとは思いませんでした。町にあるのはそこにあった建物の面影とがれきの山でした。家族を探す人、思い出の品を探す人。その光景を一生忘れることはできないと思います。

●これからの自分

これから自分に出来る事といえば、町の復興作業と、支援してくれた人達への恩返しだと思います。震災直後からがんばってくれてる人達もいるし、遠くから募金してくれたり、ボランティアに来てくれてる人もいます。そういう人達に恩返しができたらなあと思います。そして町の復興に最善を尽くしたいです。まだ町にはがれきが残っています。もう高校生になって自分達で考えて行動できる年頃なので、時間のあるときはできるだけボランティアに参加していきたいです。そして、電気や水道が復旧してもまだまだ大変な時期です。復旧するまでの間、他の人達がしてきたことを継続して、私たちも一緒になってやっていきたいです。そして、私たちが体験したことを、これからの人達に伝えていきたいと考えています。あの時に何が足りなくてこんな悲劇が起こってしまったのか……。考えていきたいです。地震がきたらすぐに高台に逃げるなど、私たちも改めて考えていく必要があると思います。私達が見たこと、感じたことをこの後の時代の人にも伝えていきたいと思います。